

●●●2019年7月～9月期 栃木県中小企業景況調査(161回)●●●

【栃木県D I 指数天気図】 point!

今期(県内全体)の業況



D I 値
-14.6
※全国 -16.6

県内全体の業況は、前期比1.7ポイント改善した。全体的に激しい変動はなく、産業別にみると、建設業、製造業、小売業は小幅な改善となり、サービス業は小幅な悪化となった。来期の全体的な傾向は、建設業は大幅な悪化の見込みであり、製造業、小売業も悪化傾向であるが、サービス業は小幅に改善する見込みである。また、全国の業況は前期比1.1ポイントの悪化となり、緩やかな悪化傾向が継続している。

～天気図の指標～

現 状	良 い	やや良い	やや悪い	悪 い	とても悪い
天気図					
D I 値	15.1～	15～0.1	0～-15	-15.1～-40	-40.1～

業種	項目	今期(全体)	売上額	仕入単価※	採算	資金繰り	来期予想(全体)
製造業							
	D I 値	-4.8	3.3	50.1	-3.3	-6.6	-6.2
業 況：今期は小幅に改善、来期は小幅に悪化の見込み (D I 値 前期比+6.5ポイント)							(↓)
建設業							
	D I 値	4.8	-15.0	55.0	-20.0	-10.0	-9.4
業 況：今期は小幅に改善、来期は大幅に悪化の見込み (D I 値 前期比+4.7ポイント)							(↓)
小売業							
	D I 値	-25.4	-23.1	35.0	-25.6	-23.0	-32.8
業 況：今期は小幅に改善、来期は小幅に悪化の見込み (D I 値 前期比+4.3ポイント)							(↓)
サービス業							
	D I 値	-22.0	-11.6	25.0	-26.6	-10.0	-16.7
業 況：今期は小幅に悪化、来期は小幅に改善の見込み (D I 値 前期比-4.9ポイント)							(↑)

※仕入単価はプラスになるほど悪化となります

【経営上の問題点】

製造業

- 第1位： 需要の停滞 (19.7%)
- 第2位： 従業員の確保難(14.5%)
- 第3位： 製品ニーズの変化への対応(13.2%)

建設業

- 第1位： 従業員の確保難(31.2%)
- 第2位： 請負単価の低下・上昇難(12.5%)
- 第3位： 熟練技術者の確保難 (12.5%)

小売業

- 第1位： 消費者ニーズの変化への対応 (33.9%)
- 第2位： 購買力の他地域への流出(17.9%)
- 第3位： 大・中型店の進出による競争の激化 (14.3%)

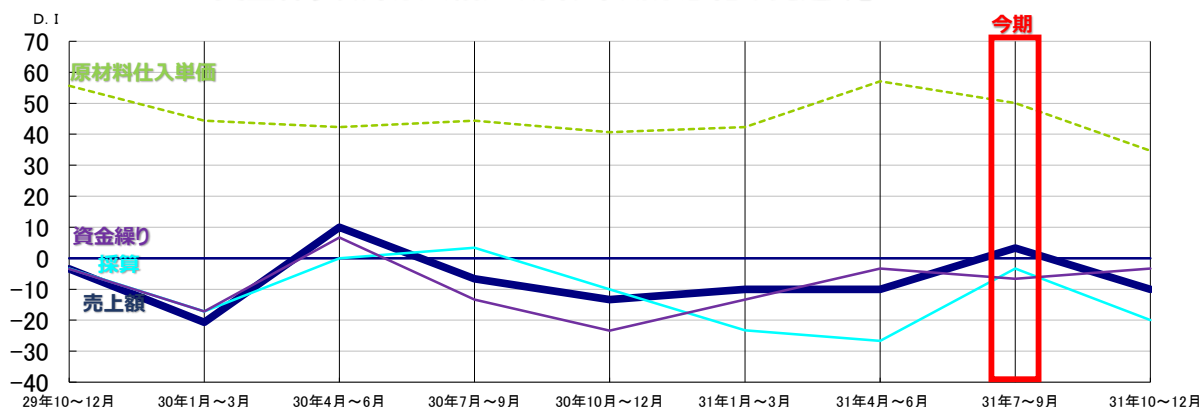
サービス業

- 第1位： 利用者ニーズの変化への対応 (24.2%)
- 第2位： 需要の停滞 (17.6%)
- 第3位： 従業員の確保難(13.2%)

－主要景況項目の推移－

製造業

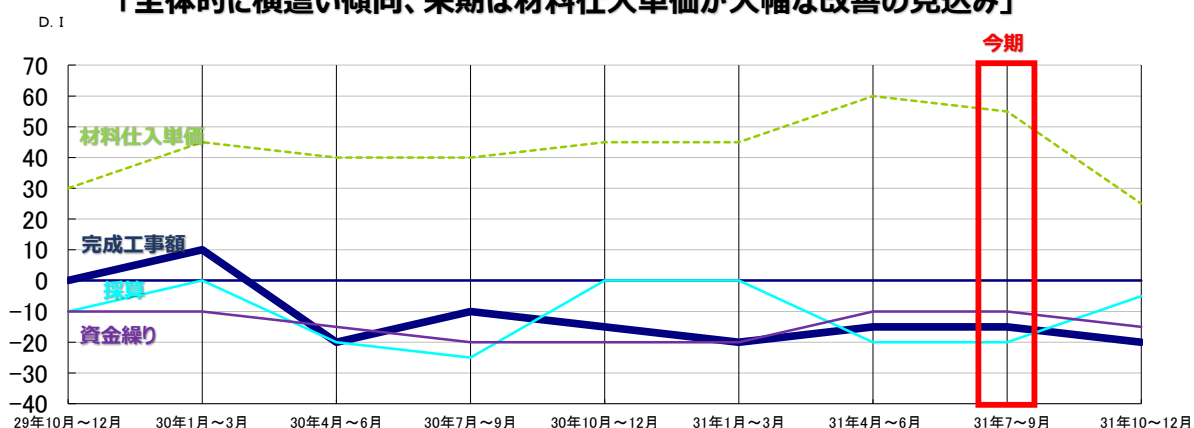
「資金繰り以外は大幅に改善、来期は悪化の見込み」



「資金繰り」は、-3.3ポイント（-3.3→-6.6）の小幅な悪化となったものの、「売上額」は13.3ポイント（-10.0→3.3）の改善、「原材料仕入単価」は-7.0ポイント（57.1→50.1）の改善となったことから、「採算」についても、23.4ポイント（-26.7→-3.3）の大幅な改善となった。来期は、「原材料仕入単価」が-15.4ポイント（50.1→34.7）と今期に続いて改善、「資金繰り」は小幅な改善が見込まれる。一方で、「採算」が-16.7ポイントの大幅な悪化、「売上額」は前々期の同値近くまで落ち込む見込みである。

建設業

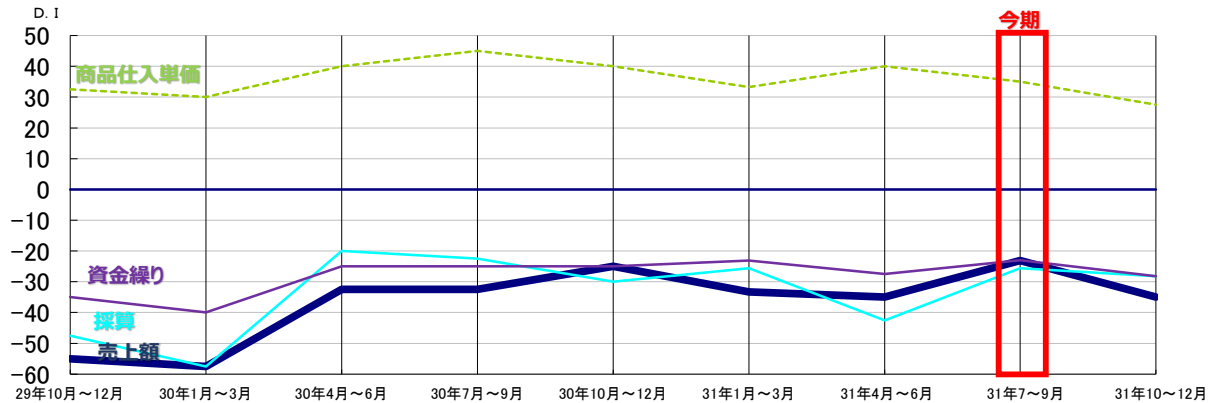
「全体的に横這い傾向、来期は材料仕入単価が大幅な改善の見込み」



「売上額(完成工事額)」(-15.0→-15.0)、「採算」(-20.0→-20.0)、「資金繰り」(-10.0→-10.0)については、前期と同値であり、変動がなかった。「材料仕入単価」については、5.0ポイント（60.0→55.0）の小幅な改善となった。来期は、「資金繰り」、「売上額(完成工事額)」ともに小幅な悪化となる一方で、「採算」は15.0ポイント、「材料仕入単価」は、30.0ポイントの大幅な改善が見込まれる。

小売業

「全ての項目で改善、商品仕入単価は改善傾向が継続する見込み」

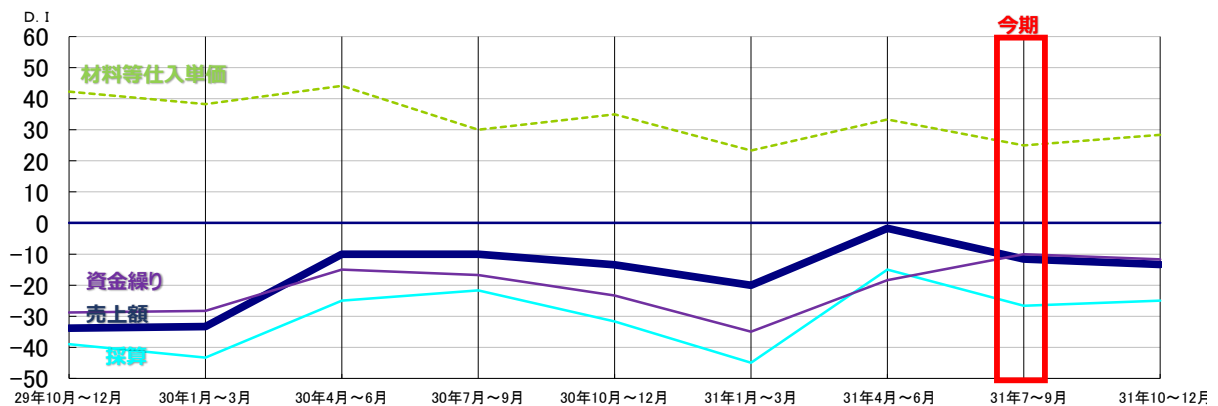


「売上額」は11.9ポイント(-35.0→-23.1)の大幅な改善となった。「採算」(-42.5→-25.6)、「資金繰り」(-27.5→-23.0)についても改善し、前々期の同値まで回復した。来期においては、「採算」、「資金繰り」が小幅に悪化し、「売上額」(-23.1→-35.0)は前々期の同値まで落ち込む見通しである。

「商品仕入単価」は今期5.0ポイント(40.0→35.0)改善し、来期も引き続き7.5ポイント(35.0→27.5)改善する見通しである。

サービス業

「売上と採算が悪化、来期は全体的に横這いの傾向」



「売上額」が9.9ポイント(-1.7→-11.6)、「採算」が11.6ポイント(-15.0→-26.6)と大幅に悪化した一方で、「資金繰り」が8.4ポイント(-18.4→-10.0)、「材料等仕入単価」は8.3ポイント(33.3→25.0)改善した。

来期は、「採算」が小幅に改善する見込みであるが、「売上額」、「材料等仕入単価」、「資金繰り」においては小幅に悪化し、全体として横這い傾向となる見込みである。

調査要領

○調査の目的

中小企業景況調査は、全国の商工会地区に地域経済観測点を設置し、地域の産業の状況や経済動向等について、一定時期ごとに変化の実態諸情報を迅速かつ的確に収集・提供して、経営改善普及事業の効果的实施に資するものとする。本報告書は、栃木県内商工会地区における、「製造業」「建設業」「小売業」「サービス業」の4業種を、主要景況項目(売上額・原材料仕入単価・採算・資金繰り)から分析し、景況情報をまとめたものである。

○調査対象地区（栃木県商工会地区）

にのみや・塩谷町・都賀町・間々田・那須町
佐野市あそ・石橋・大平町・高根沢町・那須烏山

○調査時点

2019年9月1日

○調査対象期間

2019年7月～9月期の実績及び、2019年10月～12月期の見通しについて調査

○調査方法

商工会の経営指導員による訪問調査

○回答企業数内訳

業 種	回答企業数	構成比(%)
製 造 業	30	20.0%
建 設 業	20	13.3%
小 売 業	40	26.7%
サービス業	60	40.0%
合 計	150	100.0%

※ D I 指数とは

報告書に登場する D I 値とは、デフュージョン・インデックス(Diffusion Index = 景気動向指数)の略であり、各調査項目についての増加(上昇・好転)企業割合から減少(低下・悪化)企業割合を差し引いた値を示すものである。

D I 値がプラスのときは業況の好転、マイナスのときは業況の悪化を示すことから、景気の動向を判断する指数として利用される。また、D I 値は強気・弱気など、景況感の相対的な広がりを示すものであり、売上額などの実数値の上昇率とは異なる。

たとえば、今期の売上額を前年同期と比較した結果、増加企業が50%、不変企業が30%、減少企業が20%となったとすると、D I 値は $50 - 20 = 30$ となり、売上額に対して強気の度合いを示している。